

# 令和元年度 掛川市子育て協働モデル事業 事例報告書



1 ページ

みんなおいでよ！とうもんの里  
(とうもんの会)



4 ページ

松ヶ岡子育て活用プロジェクト  
(松ヶ岡を愛する会)



8 ページ

地域における子育てサポート  
(城北地区まちづくり協議会)

## 事 例 報 告 書

事 業 名	みんなおいでよ！とうもんの里事業
団 体 名 代 表 者 名	NPO法人とうもんの会 理事長 山下みさお
団 体 連 絡 先	掛川市山崎 2 3 3 0537-48-0045
団 体 の 概 要	南遠州とうもんの里総合案内所を拠点に農業や農村の魅力の情報発信に努め、農業体験・食文化の体験・自然観察や地域の農産物の販売を通じて、人と人とのふれあいを通じ、地域に誇りを持ち地域を愛する心の醸成に寄与する。
事 業 内 容	<p>① キッズフェス in とうもん ママバトンや静岡大学の学生とコラボし、物々交換やチョークアート、草花でお絵かき等を実施した。 日 時：6月23日 10時～15時 参加者：394人</p> <p>② 七夕飾りをつくろう 静岡大学の学生とコラボし、短冊に願いを書いたり、折り紙で飾りをつくったり七夕飾りをつくった。また、キッズフェスで好評であったチョークアートも併せて実施した。 日 時：7月7日 10時～12時 参加者：34人</p> <p>③ 親子クッキングおはぎ講座 講師を招いて、どもおはぎとおとなおはぎ、黒ゴマおはぎ・さつまいもおはぎなど、様々な種類のおはぎを親子で作った。 日 時：8月10日 13時30分～15時15分 参加者：15人</p> <p>④ とうもん図鑑を作ろう・キーモンランド とうもん図鑑 田んぼで小動物や草花を見つけ、写真に撮ったり絵を描き、自分の図鑑を作った。 キーモンランド 大学生が考案した野菜カードの神経衰弱や箱の中身あてゲーム、輪投げ、自然のもので作ったけん玉、楽器で遊んだ。 日 時：11月24日 10時～12時10分 参加者：23人</p>

6月23日  
キッズフェスinとうもん



事業の様子

8月10日、1月25日  
親子クッキング



事業成果

キッズフェス

この事業によって、初めてキッズフェスを開催。ママバトンや静岡大学の学生など、多くの方との協働で今までとうもんの里に来たことのない親子連れが多数参加。特にチョークアートが大人気で大学生の企画ということもあり新聞にも取り上げていただき、当初の目的の成果を感じた。植物を使って書く絵も、個性があって楽しい。作品と子供の写真を撮っている親御さんが多く、写真が思い出の一枚になってとうもんの里に再訪を期待。

とうもん図鑑

大学生の3年がかりのプロジェクトでもある「とうもん図鑑を作ろう」は、たくさんの時間を費やし協議やシュミレーションを繰り返しての実施。反省点はあるものの、一応の成果も得て、とうもんの里の新しい自然観察の方法として定着できたら実りあ

	<p>るものになると思う。子どもの興味を引き出し育てる視点はとても大切だと感じた。子供より夢中になるお父さん、子供が捕まえた蛇に逃げのお母さん。一緒に体験することの大切さを感じた。</p> <p>親子クッキング</p> <p>2回実施し、それぞれに子供さんが積極的に参加。お母さんたちの見守る視点、子供たちの失敗を受け止めながら次に向かうことは、家庭でのこれからにつながると思えましく感じた。食は家庭の在り方で大きく変わる」今後も食の講座を通じて、地域の農産物や食文化を体験する講座を継続してゆこうと思う。</p> <p>全体を通して</p> <p>アート・食育・自然をキーワードに静岡大学地域創造学環境の学生とのコラボによる親子で楽しむ事業をとうもんの里で開催でき、「緑の風を次世代につなぐ」ための場として子育て力の向上につながった。</p>
<p>今後の展開</p>	<p>大学生との協働により、今の親子の求める活動内容になったことを受け、今後の企画の在り方、現在の親子の課題を見つめ直す必要性を感じた。</p> <p>他の団体（ママバトン）・外部講師・キッチンカーなどと協働してゆくことで、とうもんの里の魅力を伝えやすくなるとともに、多くの親子を広範囲から呼べるのではないかと感じた。</p> <p>また、やってみなければわからなかったことに、どう取り組むか。課題はあるが、自分たちだけで考えるのではなく、積極的に他団体の力を借りてとうもんの里の魅力を次世代の親子に伝えていくことだと思ふ。</p> <p>今後は、課題の可視化を具体的にして、企画立案実施する。</p> <p>地元企業さんに講師をお願いしたお菓子作り講座の企画や引き続き大学生との協働によるキッズフェスの開催を企画していく。</p> <p>また、各種子育てグループの活動会場として利用いただけるようPRしていく。</p>

# 事 例 報 告 書

事 業 名	松ヶ岡子育て活用プロジェクト事業
団 体 名 代 表 者 名	松ヶ岡を愛する会 会長 小澤 吉造
団 体 連 絡 先	掛川市肴町 8 番地の 1 2 090-7850-2436
団 体 の 概 要	掛川市南西郷に 1 8 5 6 年（安政 3 年）に建てられた、旧山崎邸『松ヶ岡』の調査研究、修復活用、PR・募金活動と山崎家『松ヶ岡』が地域に果たした歴史的役割を後世に伝える事や建物を保存する事を目的に結成された団体である。
事 業 内 容	<p><b>① 歴史的価値をわかりやすく伝えるツールの作成</b>          松ヶ岡の大切さを子どもたちに伝えるためのツールとして、小学校 3 年生でも理解できるくらいの内容のパンフレットを 5,000 部作成した。          子どもたちに親しみを持ってもらえるよう、イラストや折り方を工夫した。          作成にあたっては、障害者優先調達推進法に配慮し、パンフレットの折りについて、東遠地区施設連絡会加盟施設へ依頼した。          また、パンフレットのために作成したイラストを活用して、松ヶ岡内に子ども向けの解説版を設置した。</p> <p><b>② 松ヶ岡探検隊</b>          松ヶ岡を舞台とした子ども向けスタンプラリーや駕籠乗り体験、折り紙・コマなど昔の遊び体験、生け花体験、呈茶を行った。          日 時：令和元年 10 月 26 日（土）10:00～15:00          参加者：240 人</p> <p><b>③ 松ヶ岡で門松づくり</b>          現在では、各家で飾ることが少なくなった門松について、親子でミニ門松を製作し持ち帰ってもらうイベントを開催した。          材料準備や作り方指導には、市内にある長谷川竹材店に協力していただいた。          日 時：令和元年 12 月 28 日（土）10:00～12:00          参加者：75 人</p> <p><b>④ 講座「松ヶ岡物語」お金の歴史、役割について</b>          松ヶ岡は掛川銀行を創設した山崎千三郎や東京帝国大</p>



学で金融論を研究した山崎覚次郎が育った家であり、お金や金融の歴史に関係の深い場所である。

そこで、静岡経済研究所、主席研究員の森下泰由紀氏を講師に迎え、「お金の歴史、役割について」をテーマに、江戸から明治期の金融の移り変わりや松ヶ岡の関わりを子どもたちにもわかりやすく解説する講座を企画した。

チラシ作成や広報かけがわへの記事掲載など、準備を進めてきたが、令和2年2月末、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全国で小中学校が閉校になったことなどを受け、当該講座も開催中止とした。

日 時：令和2年3月14日(土)13:30～15:00(計画)

参加者：一

10月26日

松ヶ岡探検隊



事業の様子



12月28日

松ヶ岡で門松づくり



## 事業成果

### ① 歴史的価値をわかりやすく伝えるツールの作成

計画どおり5,000部の作成ができ、今後、松ヶ岡を見学に来た子どもたちに配布できるようになった。

子ども向け解説版の設置により、松ヶ岡の価値をよりわかりやすく子どもたちに伝えられるようになった。

### ② 松ヶ岡探検隊

240人の来場があり盛況であった。

親子連れが多く参加し、初めて松ヶ岡を訪れた方が多かったため、よいPRになったと思われる。

また、松ヶ岡を愛する会として初めて開催した本格的なPRイベントであり、運営側としてもよい経験にもなった。

	<p>③ 松ヶ岡で門松づくり 親子連れが多く参加し、満足度は非常に高かったと思われる。</p> <p>近隣小学校へのチラシ配布により、近隣住民が多く参加したため、地域の方々が松ヶ岡に親しんでもらうよいきっかけになった。</p> <p>④ 講座「松ヶ岡物語」お金の歴史、役割について 残念ながら新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止となったが、講座内容の選定や講師との打ち合わせを通じ、松ヶ岡を人づくりの場として活用していく経験を積むことができた。</p>
<p>今後の展開</p>	<p><b>事業を実施して明確になった課題</b></p> <p>まず1つ目の課題として、松ヶ岡内には、堀や石灯籠、昔のガラス、手すりの低い二階屋など、子どもたちにとって危険な箇所が多くある。</p> <p>今後は、危険箇所の把握とイベント時の子どもたちの動きを把握し、危険箇所にはスタッフを配置し、敷地内巡回のスタッフも配置する。</p> <p>また、開催前に危険箇所の小修繕や養生を行い、立ち入り禁止表示を設置するなどにより、ソフト、ハード両方から安全対策をしていく。</p> <p>第2の課題としては、これまで、松ヶ岡を愛する会は、清掃活動など松ヶ岡の維持管理活動をメインに行ってきた。</p> <p>今回のようなPRイベントには、魅力ある企画の検討やチラシの作成、さらには、事前告知や関係者との連絡調整など、会としてこれまでとは異なる知識や能力が必要になってくる。</p> <p>今回のイベント開催には、子育てサークルITTAの皆さんや、生け花教室の方など、会以外の多くの方にご協力をいただいたように、人のつながりを大事にし、会以外の方の知識や能力も活用して今後も活動を続けていきたい。</p>



## 事 例 報 告 書

事 業 名	地域における子育てサポート事業
団 体 名 代 表 者 名	城北地区まちづくり協議会 会長 溝垣茂義
団 体 連 絡 先	掛川市城北2丁目12-2 0537-24-0299
団 体 の 概 要	地区内の住民や団体が共通の目標のもと、相互に連携・協力して、地域課題の解決を図るとともに、住みよいまちづくりを進める。
事 業 内 容	<p>① <b>ファミリー・サポート・センター事業・託児サポーター派遣事業との交流会</b> ファミリー・サポート・センター事業・託児サポーター派遣事業の交流会と共催し、活動紹介や菊川吹奏楽団の演奏会、意見交換会等を実施した。 日 時：12月7日 10時～12時</p> <p>② <b>子育てママパパリフレッシュ事業</b> 子どもを託児サポーターが預かり、ママ・パパの自由時間を応援、保健師による講話や各種教室を実施した。 日 時：11月～2月（計8回）9時30分～12時 参加者：延べ50人</p> <p>③ <b>意見交換会</b> 地域における子育て支援や子育てママパパリフレッシュ等について意見交換会を実施した。 日 時：1月24日 10時30分～12時</p> <p>④ <b>子育てサポーターの協力依頼（照会）</b> 地区内で協力していただける子育てサポーターの調査や協力依頼を実施した。 日 時：1月</p>

12月7日

ファミリー・サポート・センター事業・託児サポーター  
派遣事業との交流会



11月～2月（計8回）

子育てママパプリフレッシュ事業

事業の様子



<p>事業成果</p>	<p>① 合同交流会</p> <p>子育てサポーターとのコミュニケーションを深めることができた。また、意見交換会では、子育てママやファミサポから意見を聴き、今後の事業の参考となった。</p> <p>② ママパパリフレッシュ</p> <p>市内で初めて、このような事業を実施することもあり、当初、運営面で不安があったが、アンケート調査から目的に沿った結果を残せた。</p> <p>子育てママの中には、子育て疲れや家庭環境等から、時には自分の自由時間を求める親が多いことが理解できた。</p> <p>参加者も回を重ねるごとに多くなる状況であったことから、当事業については、時宜を得た内容であったと思うし、多くの方からも事業の継続を求められた。</p> <p>③ 意見交換会</p> <p>特にママパパリフレッシュでは、初めて子どもと離れて自由時間を得た方も良い経験をしたとの感想であった。また、協力いただいたサポーターからも好評であり、当事業の継続を求める声が多かった。</p> <p>④ 子育てサポーターの協力依頼</p> <p>地区内の保育士等の人材把握について、保育経験者はいると思うが、手を挙げて支援者となると厳しい状況である。</p> <p>しかし、託児サポーターと面談した結果、5名の方に御理解をいただいた。今後もさらに事業の周知と合わせて把握に努めたい。</p>
<p>今後の展開</p>	<p>今回の子育てママパパのリフレッシュ事業を含め、一時預かり等を行う場合、人材確保（保育士等）と運営面（安全管理）が課題である。</p> <p>子育てママパパのリフレッシュ事業を継続するには、地区まちづくり協議会の事業に位置付け、財源として受益者から一定の負担と市の地区まちづくり交付金を充てたい。</p> <p>今回のママパパリフレッシュ事業については、参加者の多くから事業の継続の声が上がっており、当地区の恵まれた施設を有効活用して、地域の子ども・ママをサポートと地域で支援したい。そのために地区民の理解を得て地区まちづくり協議会事業の一つとして位置付け継続したい。</p>